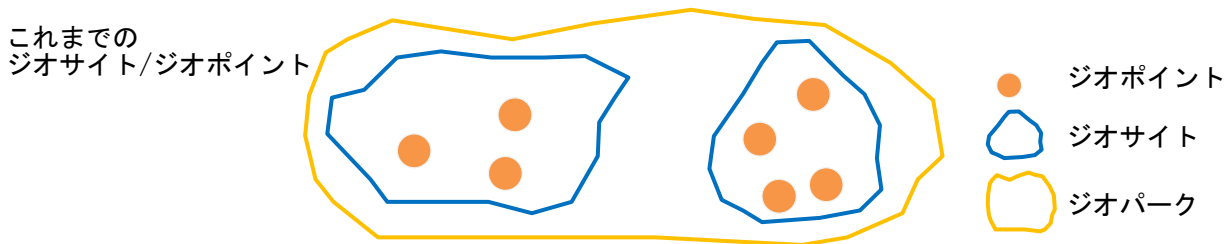


ユネスコ世界ジオパークガイドラインに対応したジオサイト見直しについて

2015年にジオパークがユネスコの正式事業化され、ユネスコ世界ジオパークとなって以降、ユネスコによってガイドラインや評価項目が整備されてきました。これらガイドラインや評価表で、ジオサイトが再定義されたため、これに対応したジオサイトの見直しを行いました。

1 従来のジオサイト/ジオポイント

これまで、伊豆半島ジオパークの「ジオポイント」には、地質学的なサイトをはじめ、地球科学的現象に関連した地点（例えば特定の地形に形成された植生分布地域、自然物や災害を祀る神社など）も含めてきました。さらに、複数のジオポイントを内容や移動距離を考慮してまとめた「ジオサイト」を設定してきた。



2 サイトの見直し方針

(1) ジョサイトとジョポイント

新ガイドラインでは、ジオパーク内を複数に分割することは行われず、ジオパーク内にはサイトのみが存在することとなります。そのため、ジオサイト/ジオポイントという階層化は行わず、「サイト」のみとすることにしました。また、サイトをさらにまとめた「エリア」も用いてきたが、これも原則として廃止します。ただし、パンフレットなどでは地域を分けた方が便利な場合もあるため、印刷物などで「北伊豆」や「南伊豆」といった地域表示を行うことはあります。

(2) 「サイト」の区分

新ガイドラインでは、「ジオサイト (Geosite)」の語はあくまで「地学/地形学的価値を主とするサイト」にのみ用いることとなっており、生物学的価値を主とするサイトは「生態サイト (Ecological site)、文化的なものを主な価値とするサイトは「文化サイト (Cultural site)」としています。今回の見直しでは、これまでの「ジオポイント」をベースにし、上記の区分に当てはめていくこととしました。ただし、この区分だけでは整理しきれないサイトについては、独自に「眺望」「災害」「研究」の3つの区分を設定し、ジオサイトの見直しを進めた。見直しにあたっては、利用や保全の現状を踏まえ、統廃合や新規設置したサイトもあります。サイトの区分は今後の整備や地形変化等に応じて変更する可能性があります。

ジオサイト	: 地学/地形学的価値を主とする場所	ガイ ド ラ イ ン ユ ネ ス コ 独 自 基 準
生態サイト	: 生物学的価値を主とする場所 植物群落など 必ずしも地形地質と関連しなくてもよい	
文化サイト	: 文化的価値を主とする場所 寺社仏閣・景観など 必ずしも地形地質と関連しなくてもよい	
眺望サイト	: その場所そのものに特別な価値はないが、眺望地点として価値のある場所	
災害関連サイト	: 災害に関連した場所 災害遺構や災害記念碑など	
研究サイト	: 学術的価値を有するが、通常アクセスや理解が困難な場所	
※「ジオポイント」や「エリア」は今後、使用しない		

以上